

水源禅師法話集 38

(2014年10月11日 京都合宿)

2015年9月13日

一乗会



ガル・ビハーラの涅槃仏

目次

水源禅師法話	1
仏像は心を込めて彫る.....	1
慈悲と奴隷化.....	3
バーミヤーン大仏の破壊.....	4
サールナートのパゴダから始まった旅.....	5
差別運動を起こしてケンカさせる手法—ディバイド・アンド・コンカー—.....	6
仏像彫刻教室	9
仏像彫刻の大まかな流れ.....	9
お釈迦様の真身舍利.....	13
「一心」「無心」「無我」を体験すること.....	18
摩訶不思議な私たちの世界.....	27
地球を狙っている魔.....	28
水源禅師が瞑想で観られたお釈迦様.....	31
お釈迦様の菩提樹から始まって.....	34
法のもとで、みんな仲良く生きていく.....	37
水源禅師が物やお金を生かして建てられたクティ.....	37

水源禪師法話

仏像は心を込めて彫る

まず、少しだけ今日は仏像のお話をしたいと思います、はじめの方だけ。それで、その後、実演してもらった後で、もっと詳しくお話しします。なぜ、私が今回、すばらしい仏師二人をお呼びして、実演してもらうのは、深い意味があります。今、この行ができたのは多分、この不可思議な仏像、カンボジアでは絶対に「仏像」と言いません。「パゴダ」と言います。「仏像」と呼べば大変失礼で、「パゴダ」という尊敬の意味で呼んでいます。「パゴダ」というのは塔でしょ。絶対に「仏像」と物みたいな言い方はしません。「パゴダ」は尊敬されるでしょ。五重塔、三重塔、だから、カンボジアでは「パゴダ」で表します。

というのは、タイでもね、自分の国でできた仏像は一切、国外に出しません。店で売っている、そういうものも、何か、ある程度のものはいいけれど、それ以上は禁止されて、取り上げられるらしいですよ。一番簡単に手に入るのは、今のところミャンマーですね。他の国は、そう簡単に「仏」、というよりは「聖なるアーティファクト」と言ってね、聖なる、非常に神聖なものであるから、そう簡単に物として売り買いとか、そういうことはしないみたいです。これには訳があります。

お釈迦様が最初に説法をされた鹿野苑、サールナートというところですよ。そこには「真身舍利」といって「これだけは絶対の本物の舍利だ」という1粒があるわけです。それは100年以上前に、お釈迦様の舍利を埋めた大きなストゥーパ（仏塔）というのがあるわけですね。大英博物館がそこを発見して、字まで書かれているわけですね。その舍利をスリランカの人が「何とか菩薩」という普通の人ですけどね、その舍利をバラナシのサールナートに寄付してビハーラ（寺院）を建てたわけなのです、100年くらい前。

そのときの絵はね、非常に有名な日本の仏教画家が書いています。そのとき、私が行ったときに、普通の在家でしたけれど、そこのお坊さんが私を見て、もう飛び上がるくらいびっくりして、非常にびっくりして、それで、私を王子様みたいに待遇して、彼の特別なお寺の部屋を用意されて、そのときに「これをどうかカナダに持って行ってくれ」と。私の家ではお釈迦様いるし、お世話するのが大変なのです、気を使って。ただ置くものではないのですよ。間違いを起こしたらダメなので、本当に気を使います。そうしたら「どうしても」ということで、最初はお断りしたのだけれども。

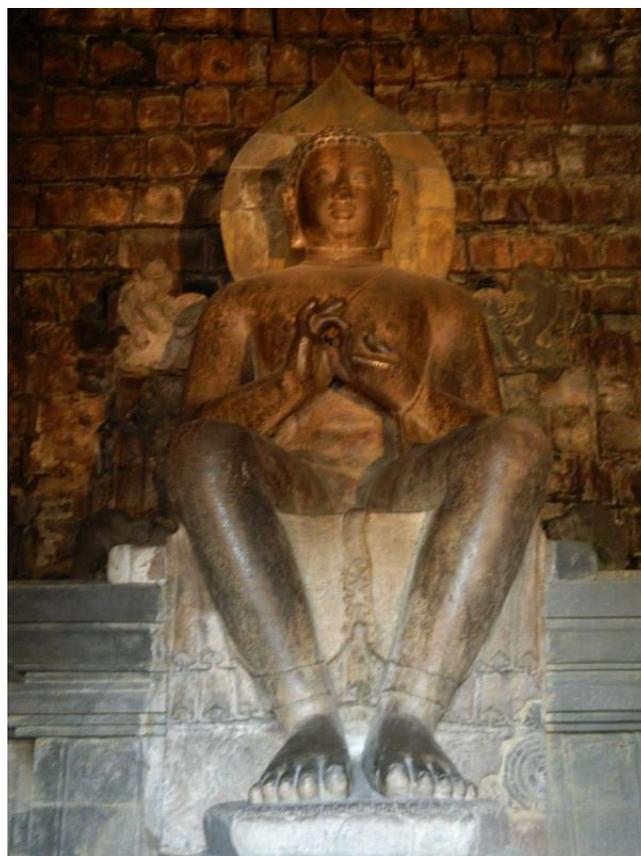
渡された、その仏像がね、本当に映画と一緒に話かけるの。本当に話かけるの。本当ですよ！映画だけで見ると、本当にそれ、私びっくりした、ダーと。なぜ、それが発生したかと言えば、あの戦乱のカンボジアから、終わった後、お釈迦様のところにお参りに来る一団が、カンボジアから訪ねてきたらしい。2002年だったと思います。私が訪ねる1年前に訪ねてきたと。これは特別な仏像で、お釈迦様の舍利と一緒に49日間。49という数字は、とても大切です。まあ日本ではいろいろな仮説がありますが、これもまた深い意味があります。

修道院というところか、まあ、そこで朝に夕なに音楽、プージャという、歌うわけです。朝にプージャ、夜にプージャ。本当はそういうところでダンスも踊ります。「めでたい」ということ。そういうふうな 49 日間、特別なチャンバー (Chamber) にですね、お釈迦様の仏像があります。その下に隠しドアがあって、小さい、その奥に秘められて、鍵かけられて。そこに「真身舎利」があるわけです。49 日間そこでまつられたもう特別なパゴダなわけですね。

私の目から見たら、本当に語りかける。摩訶不思議な話です。まあ、カナダに持ってきてお祈りしたらね、まあ一全身が木であるのに、金色に輝き始める。その仏壇の中はね、濃い、なんていうか、紫、光。赤紫から紫に広がるわけです。でも、私の目にだけ見えるから、他から見えないから、頭がおかしいように見えるけれど、私にはそう見える。というふうな、彫る仏像には、そういう「聖なる力」が入っていくわけです。

だから、本当の仏像を彫るのは、やはり修行されて水をかぶって、お坊さんでも「まずお祈りして、心を清めてから彫る」と言っています。『般若心経』でもね、あれはただ書くものではないのです。一字書くごとに三回、全身でお辞儀するわけです。一字書くのにチベット方式 (五体投地礼) の全身でお辞儀みたいに。

なぜかといったら、毘盧遮那、盧遮那仏、釈迦牟尼仏。毘盧遮那仏から直接、釈迦牟尼仏に来るには、あまりにもすごいから、毘盧遮那仏は盧遮那仏を通して、お釈迦様が現世で今、法を説いたと、『般若心経』。盧遮那は 10 回、仏になられたわけ。毘盧遮那は 1000 回。「過去莊嚴劫千仏」という、このことなのです。だから、この中にいっぱい名前がありますけど。



ムンドウ寺院の御本尊の毘盧遮那仏 (大日如来)

だから、『般若心経』を書くには、一字書くには三回、名前を唱えながら一字書きます。それは、私のお母さんが死んだときに、それやったわけです。というふうにして、それを今度はお寺に納めるわけ。そうしてお寺に納めて、その1巻はお釈迦様の仏陀の仏像の下に入っています。それで「聖なる力」が出てくるわけです。だからただ仏像を彫るのではないのです。心を込めた瞬間に、心が具現化して「聖なるもの」に変換していくわけなのです。

慈悲と奴隷化

だから、そういうふうな「最も尊いものは」非常に力があるから、「他の宗教は邪教だ」と言って破壊してしまうわけ。破壊しなければ、他の宗教が力を発揮できないわけです。特に、仏教の場合は「宇宙の真理」でつくられているものだから、大変な力を持つわけなのです。だから、過去2000年以上、他宗教は仏教をいかにして潰すか、又はまねてとか、それをやっているわけ。というのは、どこの国でも私たちは「童子」と書かれています、「童子」と。「何何童子」と、お経でも。「童子」というのは「奴隷」のことなのです。

というふうに、私たちはいつの世でも、そういう体制の中で生産する道具なわけです、一番安い。それを頭があるし、同じ人間だからね、そういうふうに「いかにして考えさせないで生産性を高めるか！」というのが、今までの歴史の連続です。だから、スーパー文明というのは、どこでも必ずや武力を持って、他の国を破壊しに来るでしょ？ それはなぜかといったら、ライオンが獲物を捕るみたいに、自分でつくるより易しいわけですよ。行ってぶんどってやればよいから、一番簡単。

ということは、聖書にも書かれていますね。ユダヤの民がエジプトに行って、一生懸命、国づくりされて、また帰ってきたら、今度はペルシャの方に600年間、奴隷になって、そこで国づくりした、奴隷みたいに働いたと。結局、ユダヤの民は非常に頭がよいからね、その時代に何でもつくれるわけ。

だから、これはね、人間に限ったことではないのです。蟻（アリ）もね、他の蟻を攻めに行くでしょ。それで殺さないのです。奴隷として引っ張ってきて働かせるわけ。だから、蟻の国はね、農場もあり、農場あるのです。ちゃんとキノコ育ててね、食料にするわけです。非常に進化した社会なわけ。非常に人間とよく似ていますよ。家のお父さんは蜂（ハチ）を育てるのが大好きなわけ。なぜ大好きかと言ったらね、いやーこれはもう人間の社会とそっくりだと、兵隊アリ、女王アリと、見ていたら楽しいと。これで社会の動き見られるからと。でも苛烈なのです、生産性がなければ、すぐポイ！と捨てられる。働かないものは、すぐポイと追い出してしまふ。

私たち人間は体が悪い、それでも「慈悲の心」で、そんなことできないでしょ？ そういう「慈悲の心」のない国、そういう教えがない国は、もう蜂と一緒にです。ほっといて知らない、それでおしまい。だから、私たちは「よく人間は、とてもスパーブレインで、心もよくて」、そうじゃないですよ。私たちよりもっと進化した爬虫類もおるし、虫さんもおるし。それぞれの心の発展によって、前にも話したと思いますけれど、蟻さんは250以上のケミカルランゲージ、ケミカル、匂いの、すべてそれで伝達していくから、このエアコンディションの巨

大なビルディングも造るし、人間以上に 3 メートル、4 メートルの高いビルディング造るのですよ。人間だったら、ツインタワーとか、何百メートル、それ以上のもの造っているわけ。それなりのテクノロジーで、図面なしで（笑）。

でも、そういうふうにスーパーテクノロジーをそれぞれ持って、違う生物でも、そこには「慈悲」ということがないわけです、以外と。亀さんになれば、子ども（卵）生んで、私に「ここに入らないでくださいよ！」と、もっと進化しているわけ。「心」ですね。だから、蟻さんでも自分のテリトリーはものすごくよく守ります。命を懸けて攻撃に来ます。少しでもそこを横切ったとか、無礼なことしたら。だから、パオ僧院ではね、歩いていたら、必ず石を置いているわけ。「蟻さんが通る道だから、気を付けてください！」と。

バーミヤーン大仏の破壊

話は戻りますけれども、こういう仏像というのは、心を込めて彫られたときには、本当に「不可思議な力」を持ちます。だから、他では「何もないのがよいのだ」ということで、徹底的に「偶像崇拜」とか変な名前を付けていますけれども、最も、最たるイスラームは、隠れて「三人の女神」を拝むわけなのですね。でも、他の像は徹底的に破壊しますね。あのブラックストーンという、あのお寺には、メッカのお寺の幕が張られて「三つの柱」があるわけなのです。つまり、「三つの柱」ということで「三人の女神」を代理して、リプレゼントになっているわけ。その中に隠して小さく女神があるかも分かりませんよ。

というのは、あそこは太古からいろんな予言をしたり、いろんな病を治したりということで、そこら一体からメッカに集まっていたわけ。イスラームじゃないわけ。そのユダヤ教、キリスト教、それからイスラームになったけれど、その前は、例えば、その地域のエジプトカルチャーのパガンといわれる太古エジプトの女神だったかも知れない。その神がいわく「すべての他の像は破壊してください！」と。「そうすれば、私が力を発揮できるから」と、明快に言っています。それを真に受けて「像は邪教だ、何だ」と、自分の国の像を破壊するでしょ？

その後、一番恐ろしい出来事が発生したのはアフガニスタンです。そこには「世界最大の仏像」、2000 年以上前に「バーミヤーン像」というのがあるのです。82 メートル。私は敦煌という中国の有名な土で造った「世界最大の仏像」を見てきました。それは立派な物で、1000 年以上前に造ったのに、お城のような中にちゃんと屋根を付けて、一つ一つの洞穴には、それは色付けて、1000 年前とは思われないくらい、何て言うのでしょうか、口では表せないくらい、現代では造れないくらい「聖なるエネルギー」を、そこら辺一体に感じますね。

というのは、昔そこはシルクロードの中継地点だったわけ。だから、そこに富が落ちていくでしょ。そこでお参りすれば旅の安全が願えて、そういうことで、仏陀のこういう大乘仏教が、そこから北から回って入ってきたの。やはり否定できないすばらしいものがあります。敦煌というのですが、あっちではドンファン。タルファン。今、大きなウイグル族のシンジャン（新疆）というのですね、中国語で。イスラームの人が中国の人を殺して問題を起しているでしょ。あそこ昔は全部、仏教国でした。インドネシアも仏教国で、マレーシアも仏

教国で、それが全部、名前が変わって回教になって、そのときに全部破壊してしまうから、1000年たっても何もないのです、インドネシア旅行しても。シンジャンというところに行ってみただけでも、仏像はそこだけ残っているから、砂漠の中に。飛行機で観光客は来るし、それから日本の団体は来るし、そこだけしかお金は落ちないわけ。後は本当に何にもない。

それで恨んで「中国の漢民族は仕事をくれない」と。ねたみねたみで今度は殺しに行くわけです。自分たちが仏像を破壊しておいて、今度、貧乏になったと。今度、逆恨みして金持ちの漢民族の北京の人を殺しに行くわけです。また、バーミヤーンの仏像を破壊したでしょ、その後で、ブッシュがアタックしていったわけ。もうそれで防ぐものがなくなったわけ。2000年に渡る、アフガニスタンを守ってくれた「聖なるもの」がなくなったから。もうバー！と入っていった。いまだに泥沼でしょ、抜き差しならぬ状態なの。

だから、カンボジアでは絶対に「仏像」と言いません。「パゴダ」と言います。まあ、そういうふうな、すごい「不可思議な旅」をしました。

サールナートのパゴダから始まった旅

これは今、初めてあなたたちに報告しますが、人間の彫った、この仏像がどうして、口を開いて話すか、本当に。映画と一緒に。非常に早いスピードで口を動かすので、意味が分からないわけです。それで霊能者に聞いたわけです。これはどういう意味なのか。その霊能者は今度スペイン系の人だから、ただビジョンを言うわけ。石を持ってきて、字を書いて「これ」と見せるわけ。「ハーフムーン」、満月ではなく「ハーフムーン」を二つ書くわけ、月ね。それと「矢印」を書くわけ。それがメッセージ、それを受け取ったわけ。

私は、その、ものすごく気を使ってね。大変な仏像がサールナートから来たでしょ。普通の仏像ではないわけです。他の人には普通だけれど、口で話すし、見れば話かけてくるし。それで、仏壇の中が黄金の色に輝き始めるしね。「他の時空と通じている」ということなの。その仏像がまた摩訶不思議というのはね、今度は顔がババババと変わっていくわけ。あまりにも不思議だから、私の印幻先生に「過去に女性の仏陀はいますか？」と。「いるよ！」と。「なるほど」と。「仏は男だけ」と、私たち覚えているでしょ。やはりさすが私の先生。あらゆる経典を読んでいるから、「いますよ」と。それで分かったわけです。すべてこれは「仏の顔」を表していたわけ、ババババと変身して。これは世界で初めて、あなたたちにお話ししますけれど。だから、「仏界とここは全然切れて涅槃で関係ない」、そうではないですよ。

2002年に、この団体が来た。そこで、そこからカンボジアを訪ねて、2000万人のいる国でしょ。「誰が、この仏像をバラナシのサールナートに持ってきたか」と。探しまわったわけです。まあ、無謀です。2000万人、何も知らない。どこ聞いても「知らない、知らない」と。その1回目の旅は探し出せなかった。もう1回、2回目、ずうっと探し回ったわけですね。最後に私がコーヒーショップでコーヒーを飲んでいた屋台で、そうしたらね、すぐ私のそばに何か非常に上品な女性が座って、飲みに来ているわけです。私は宗教が好きで、この人はクリスチャン。この人は国会議事堂の議長の娘さんなわけ。私は全然知らないし、そばで話して。そして、その人がね、いろんなことを話しているわけ。「一体このカンボジアはいつ救

われるのだろう」と。いつアミターバ（阿弥陀仏）じゃない、「アミターレ」とか、マイトレーヤ（弥勒菩薩）とは言わない。「アミターレ」とか、そういうことでピンと来た。

「あなたここのプノンペンで一番偉いお坊さん知っているでしょ？」と。「もちろん知っていますよ。私のお父さん、お母さん、おじいさんが埋められているお寺が、このカンボジアでは最高のお寺で、そこに私の家の大きなパゴダの基石がありますから」と。「じゃあ、その人を紹介してください」と言ったの。それで、じゃ電話パ、パ、パ！と掛けていって。

そして、そこでカンボジアで世界的な有名な在家で仏法を教える人がいるわけです。その昔、カンボジアではお坊さんは空を飛んだのです。それを全部フランスの人が来て、ボンボンと撃ち落として殺したそうです。これがフランスの正体。ま、それは別として、カボチャンといって、スイスに住んでいる方みたいですね。スイスによく仏法を教えに行っています。そこに行ったら、もう 1000 人くらいの方が、その人の法話を聞いているわけです。さすが国会議員の議長のお孫さんだから、電話でツーカーで、私が皆の前から通されて、皆ずーっと見ていて。

私が英語で「あなたは 2002 年にサールナートに来たでしょ？」と。「はい、行きました」と。「そのとき、あなたは仏像を納めたでしょ？」と。「あ、それは私のナンバー 2 に聞いてくれ」と。ナンバー 2 というのは比丘なのです。2、3 と。だから、在家が比丘の上に立っているわけです。なぜかといえば、この人は法（真理）を話すわけです。法を話すものは在家も出家も関係ないわけ。だから、そのときは全部お寺が破壊されたけれどね、私が 2、3 年に行ったときには、もうお寺がたくさん建って。

その王様は十戒を守るのです。比丘にはならないけれど、サマネーラ（沙弥）の戒を守って、お酒も飲まないわけ、ちょっとだけ。この人はね、ダンスも踊るし、6 カ国語話し、ヨーロッパで生活していたから。ただやることは瞑想だけです。パーティーもちょっと顔を出して、すぐ閉めて。やることと言ったら、いつも瞑想、瞑想。だから、国が安定してしまっただけ。それで宮殿には住まないわけ。農村に住んで、お金持ったら、農民にボンボンボンと与えるから、それで今、国が安定しているわけ。そのカンボジアのプノンペンに行ったら、すぐ分かりますよ。大きなお寺の上には顔が彫ってあるのです、顔。

西洋ではこれはね、「パガン」といって「邪教」で、「こんな野蛮なものはない」と言って、潰しにかかる。だから、バーミヤーンが破壊された後、すぐに大戦争が起こって、あの国はいまだに大変でしょ。あの国は回教で、デモクラシーも何もあつたものではない。だから、「あなた方は幸せだ！」というのは、「いかにこの国でどういうことがあろうとも、仏国で生まれて、こういう法を受けられる」と。

差別運動を起こしてケンカさせる手法—ディバイド・アンド・コンカー—

日本ではよく差別問題とかいっぱいあります。これはね、「ディバイド・アンド・コンカー」(divide and conquer: 分割統治〈分裂させて征服せよ〉) といって、400 年前にイギリスのウィリアム・アダムス（三浦按針）さんが、徹底的に日本を改革したわけです。その前に、フランシスコ・ザビエルが、徹底的に東洋を研究して行って、日本を徹底的に支配下に置く

準備作戦をしたわけ。それで成功したのが、明治維新のときに、薩長に武器を与えて、幕府を完全に倒した。その倒した西郷隆盛が 20 歳ですよ。全部 18 歳、頭あるわけないでしょ。

坂本龍馬もカウボーイブーツ履いて、その像あるよ。カウボーイブーツですよ。今、私たちがカウボーイブーツ履いたらどう思う？ 拳銃を持って歩いたら。すぐ捕まるでしょ？ (笑) その人が英雄で、その一派が 150 年前に今の日本をつくって、結局、「西洋の御用聞き」だったわけです、いくら良い格好しても。断髪、西洋のすべて真似して。それで、よいもので残ったのは、武士道のマーシャルアーツ (武術) ですね。ああいう禅とか、そういう。それを徹底的に利用したわけですね。だから、私たちは、この日本で私も生まれて、日本にいっぱい善いものがあります。

また、ここで差別運動を起こさせて、中で喧嘩させるわけです。もし、ここにね、朝鮮人、韓国人、中国人がいなかったら、必ずや日本はね、東北と東西、西国と東国、必ず殺し合いやります。だから、差別されているということは、それは放っておけばよいです。「魔の心」で、皆、それは「魔」だから、地獄に墮ちるのです。仏教でそういうことやれば、絶対、墮ちていきます。だから、そういうことは放っておいて、ここで正々堂々と仏法を守って生きていけば、この日本を安定させるわけ。そういう差別されるものがいなくなったらね、ウクライナどうなっています、法がないから殺し合い。

ミャンマーでもね、「ディバイド・アンド・コンカー」のその手法で、50 の民がいるから、今でも北と南は話が通じないでしょ。50 年前は市民戦争して、たくさんの人が死んだわけだ。モン族が今、支配しているけれど、「誰が天下を取るか」と。だから、人間というのは浅はかなもので、ちょっと魚を目の前にやれば、これに飛びつくわけ。だから、アフガニスタンと云って、大統領選挙と云って、アメリカ寄りであればすぐなると。自分の国の国民が、どんなに死んでもよいと。

こういうふうな人をローマ帝国は過去 3000 年やっていて、ヨーロッパを制圧したわけですね。だから、今の手法は「ディバイド・アンド・コンカー」というには、イギリスではなく、本源はローマ帝国です。というふうに、私たちは、いつの世でも「私、私」という、人を助けるよりも、共同で生きるよりも「私」ということで「自我」ですね、「自我」、「アッタ」(我)。アナッタ (無我) ではなく、アッタ。「これが全部、私のもの」という「ここ」が徹底的に、こういう「魔の社会」を発生させているわけです。これは今の日本だけではなく、世界中どこでもやります。

だから、ルワンダのね、ツチとかフツという二つの民族が仲良く暮らしていたわけですが、突然デマの報告によって、刀で国民が 200 万殺戮されたわけです。という、人間は恐ろしいものを持っているわけ。「善、悪」を知らなければ、こういうことをやるわけ。こういうことはね、今に始まったことではないわけです。

そのとき、今から数千年前、2500 年前か 3000 年近く前、ラクソーというエジプト帝国があったわけですね。そのときは力がドーと薄れてきたら、山のようにどこからか民衆が攻めてきたわけ、それを撃破したらね、いろんな人種が混ざってアタックに来たわけ。今、「イスラムステイツ」といっているでしょ。世界から若者が行って、今やっているでしょ。歴史は繰り返します。

というふうな事実も分からなければね、瞑想者として、どうして一般の人を瞑想で導きますか？ 瞑想者はありとあらゆること、一応、常識論は持たなければいけないですね。実際に家もつくる、車も直す、飛行機も乗る、船も乗る、全部やって、初めて核心を持って、人に教えられると思います。それをたった本読んで、経典やって、修行もしないで、それが本物仏教で通る、それはちょっとどころか大間違い。やっぱり山に登ってね、命を懸けて、そして法を持って人に伝えると。

そういうことでお話を終わります。それで、まあ、非常に今はすばらしい授業を受けられますから、心して皆さんと一緒に見ましょう。どうぞ先生(笑)、私はここで、ちょっと横で拝見させていただきます。



仏歯寺跡といわれるアタダーゲ

仏像彫刻教室

仏像彫刻の大まかな流れ

【水源師】

皆さんもね、自分なりにこれを見て後で仏像を彫ってみることを勧めます。そこで心が進化していきます。瞑想もよくできます。仏像というか、こういうのをどうやってつくるか、基本的な流れをちょっと説明してください。

【Aさん】

愛媛県から来ましたAといいます。先生の今、仏像のお話の後で、自分が話すのは大変、恐縮ですが、私はプロではなくて趣味で、自分は知的障害者の施設で働いてまして、石けんを作っているのです。石けん、こういう固形石けんがあるのですが、それを文化祭とかお祭りのときに彫るので、それで、仏像でも彫ってみようかと思ったのがきっかけで、それが4年前で、それがだんだん上手になってくると、「お前も木でやってみれば」と言われて、木で彫ってみたら、「けっこうよいのを彫るじゃないか」と言われて、それからが初めてなのです。それで今回、去年の合宿でお世話になった、先生をはじめ、数人の方に仏像を差し上げたことで、受け取ってもらえたことで自分もうれしい限りであります。それでは「仏像をどうやって彫っていくか」ということなのですが。

【Bさん】

自分は設計図が、これ今、私が虚空蔵菩薩を彫ろうと思って、これに合ったサイズの木を準備します。Aさんは石けんで作られたから、3次元のイメージが自分の中でできる方なので、普通はできないので、私はまずこれを粘土で作ります。全く同じ大きさのものを粘土で作ります。その粘土でこれを作って、その横に、この木を、同じ大きさの木を置いて、削り出していく作業が基本的になります。

【Aさん】

設計図が全くないわけではないのですが、これはこちらに釈迦如来立像の横の絵でして、まず大体、木が四角の立体のものなのですが、それを最初、自分は無駄な部分を落とすのに、家、実家が工務店なので、電動糸鋸（でんどういとこの）があるので、自分は糸鋸でサクサクと落していくのですが、そんな糸鋸がない方は工作台でクランク、万力で挟んでノコギリで落とした状態がこれです。ここから自分が「粗彫り」といってまして、トンカチとノミですね、使って、大体のところをポンポンポンと落していきます。落とした後は今度、彫刻刀で彫っていきます。コリコリ毎日やっていくのですが、そんな形で彫っていきます。一番、何で仏像を彫るかというきっかけが、実は。

【水源師】

それはサマーディブッタ、スリランカですね、非常に素晴らしいですね。



スリランカのサマーディブッタ

【Aさん】

このサマーディブッタがすごく好きで、これをどうしても見に行きたいのです、スリランカに。でも行けなくて、自分で彫ってみようかという気持ちになって、サマーディブッタを彫りたくて、始めたのがきっかけなのです。こちらはですね。これはボロボドゥールの仏像です。

【水源師】

全部、珍しいですね、この像は見なかったですね、全部全体が出たのは。私が見たのはね、ここまで囲んであって、ここだけが出ていました。昔のだと思う。この仏像だけ、1カ所ですね、これだけが、ちょうど私が護摩焚きした、その丘を見ているわけ。後は全部、囲われている。私が護摩焚きをそこでして、後で、この阿弥陀様が、阿弥陀なのですね、全部。お釈迦様だけど、阿弥陀の印を組んでいる、全部。

それで、お釈迦様が、時空を超えて護摩焚きをやるのを分かって、ここだけは顔をのぞかせて、この目線がね、ちょうど丘の上だったですね。摩訶不思議で、その護摩焚きやった後の3週間後に、タイのお坊さんが、その場所に「お釈迦様の仏像」を建てるといふ、摩訶不思議の連続なの。



水源禅師の護摩焚きを見ていた釈迦如来

【Aさん】

ボロブドゥールの仏像を見て彫ったのが、こちらの仏像なのですが、これもサマーディブツダです。こちらは不動明王を彫ろうと思ったのですが、木が堅くてなかなか彫り進まず、途中なので、この後、皆さんに彫ってもらうときに、どうぞ練習用に使ってもらってかまいませんので。Bさんは「一刀彫り」なんですか。



Aさんが彫られたサマーディブツダ

【Bさん】

私は基本的にはこの二つしか使わなくて、これくらいのものは、この二つでもつくれます。というのは、道具磨きがなければならぬので、私、いろんなものがあってもできないと思って。

【Aさん】

刃物は研ぐのが、すごく難しいです。何年もかかる。上手に研ぐには。

【Bさん】

大体二つあれば、これくらいできるので。

【Aさん】

自分もメインで使うのは、この三角刀が8割、9割で、他のものはあんまり使わないです。だから、もし始めたい方がおられたら、まずこの三角刀の大きいものと小さいものがあれば、2、3本あれば、始められると思います。

【Bさん】

私は仏師の先生に日曜日に習ってしまして、私もちょうど2年くらい習っているのですが、初めにやるのは、ただ「これをこう削る」という練習をひたすらやったり、模様を削っていくということをやります。それができるようになると、彫刻刀の使い方が分かってきて、次に小さな小槌（こづち）を作ったりして、立体ものを作って、次に手を彫ったり、足を彫ったり、顔だけを彫ったりと、パーツをまず作って、いっぱい作って、何となく体に作り方を覚えさせてから、初めてこういう仏像を作ると教わりました。

【水源師】

大きな仏像をつくる場合は中をくり抜いてつくるのですか。

【Bさん】

そうです。くり抜くと聞きました。

【水源師】

そのくり抜き方は半分に割って、それからまたのりでくっ付けて？

【Aさん】

大きくなると、木が割れるのですね、木が乾燥して。先生の言われたのは「寄せ木造り」といって、これがバラバラになっている感じ、それでパーツごとに造って、最後くっ付けて造る、大きい仏像は、中はくり抜いて割れないように、その方が丈夫だそうです。

お釈迦様の真身舍利

【参加者】

(仏像の) 中に何か入れたりするのですかね？

【水源師】

本物は舍利が入っている。だから、本当の仏像はめったに手に入りません。泉涌寺に、楊貴妃の冥福を祈って造られたか、仏像ですね、楊貴妃観音。それをエックス線で撮ったら、中に小さな瓶に「たぶん舍利ではないか」というエックス線が写っています。聖なるそういう仏像は必ずお釈迦様の舍利が入っているか、非常に行を達した人の舍利が入っています。

舍利というのは見たことありますか。見た人いるでしょ、東京法話会で。あの舍利は本当の「真身舍利」なのです。あれは天界から受け取ったのです。本物はこの地上にもうありません。天界がすべて押さえて、その行を達した人に下ろしてきます。ちょうど露がファーと出るように。その舍利は手で絶対触ってはいけません。きれいな香りのよい花だけで触って、つぼに移せます。というふうに、仏教は時空を超えているのです。そういう舍利が本物には入っているわけです。

だから、結局、お釈迦様のアバター（化身）になるわけです。ちょっと見えないかもしれませんが、舎利の写真を回します。本当の舎利です。ブッダ・ダートゥ (buddha-dhatu) といいます。九つ。それで一つ増えて、本物は舎利が増えるのです。また、ちゃんと信仰してやらなければ、天界に引き上げられてなくなります。



水源禅師が東京法話会で公開された「釈迦如来の真身舍利」

【参加者】

この間、生駒山に行って、先生が生駒山に下見で行ったときには舍利があって、今度、合宿したときにはなくなってますか？

【水源師】

最初、生駒山に行ったときには強烈なエネルギーを感じて、これはすごいということで、そこで瞑想すればすばらしいと思って行って、2回目、合宿のときには、そのエネルギーは消えていました、なぜか分かりませんが。そういう仏の舍利とかね、アーティファクトは時空を超えて、何劫でも消えないわけです。

それが映画の『アバター』あるでしょ。ああいうふうに不可思議な力を持って、地上をいつの世でも助けようとしている。まあ、そういうふうに心を込めれば、心が映って、特に自分が心から修行していけば、尊い心が仏に映り「聖なるもの」になっていって、人を幸せにします。という、仏像とは「ただの物」「カッコいい芸術作品」ではないのです。「この世を守る仏の代理」なのです。

【参加者】

生駒山に行って帰ってきて、先生が観音様をビジョンで観られたと言って、けっこう生駒山で大変で、先生が魔と戦ったというか、大変な偉業をされて、観音様が出てこられて、家にも先生から戴いた観音様があるのですが、何とも何とも言えない、お仕事をされたというか、もうにこやかな、何か伝わってくるのですね、それが。だから、やはり仏像というのは生きているというか、本当にそういうことだとよく分かります。

【水源師】

その仏像は、達磨大師様に腕を捧げた靈光さんのお寺で、靈光寺。慧可さんからもらってきたわけ。達磨大師の法統、慧可さんのお寺。ここにも一体あります。これが靈光寺から戴いた観音様です。向かって右のピンク色の。この観音様は、そこの真身仏牙舍利で捧げて、そこで私が瞑想してきました。普通は入れないのですが、比丘の袈裟を着ていましたから、誰も文句を言わずに、その前に置いて、ずーっと30分、それで、ここにお座りになり、京都を守っておられるはずですよ。



水源禅師が靈光寺から将来された観世音菩薩像

【水源師】

もっと詳しく彫り方とか。

【Aさん】

今の話ですと、修行も進んでいない自分がよいのかなという気持ちになりましたが、彫るときは大体、三角刀で彫った後は、こういう細かい部分は、お釈迦様の螺髪（らほつ）、ここを彫るのが自分は一番好きなのですが、縦に、途中なのですが、こういう小さい三角刀で、

【水源師】

舍利（写真）です。

【参加者】

金色なんですか。

【水源師】

金色に見えますが、本当はもっと透き通っています。普通のお坊さんが出す舍利は大体、「土」みたいに黒いのが多いです。お釈迦様になれば「宝石」みたいになります。だから、

皆さん、「舍利、舍利」というと、「骨」と思うでしょ。「宝石」なんです。お釈迦様を茶毘にしたとき、全部が舍利になった。ただ頭の骨が残ったとか、何かここかな、何か、それはスリランカの最も有名なストゥーパに入っています。そこで瞑想したらね、映画と一緒にダーといろんな映像が観えてきます、ダダダダと。

だから、そういう大きいボーダね。ボーダとかストゥーパが、もうお釈迦様自体の力を発揮するわけ。その一番上の尖がったタワーあるでしょ。あれはダイヤモンドなのです、ダイヤモンド。それで、天界からエネルギーもらって国を守ると。非常に科学的なのです。ミャンマーではゴールド重ねて、ゴールドが一番聖なるエネルギーを発射するから。

だから、クスコもその街は全部ゴールドの板で固められたわけ。というふうに、だから、「金」というのはキンキラキンではなく「聖なる力」を持っているわけですね。だから、私の家に来たお釈迦様が仏壇に入られたら、普通のこの木ですよ。本当に純金になるのですよ、バーと光出して。大変なことです。そういうことを今、初めてあなたたちに言いますけれど。

なぜかといったら、修行して瞑想して心を高めようとしている方だから、こういう極秘の世界を今、紹介しているわけです。だから、この世界は、ただ私たちが存在しているのではないのです。だから、まかり間違っても、『慈経』に書いてあるように「人をあざむかない、卑しめない」と書いているでしょ。ちゃんと書いてあります。だから、そのとおり生きていけば間違いありません。まあ、どうぞ続けてください。

【Aさん】

髪の毛を彫るとこなのですが、こういう小さいのでないと彫れないので、Vの字に溝を入れて、細かい作業ですが、Vの字に溝を入れて尖った感じにしていきます。細かい作業のときは、こういう小さいのが必要になります。あと耳の部分は、上手な人は、こういう三角刀でも彫っていくのですが、耳はですね、こういう丸刀でカーブを彫るといいますか。

【Bさん】

一番仕上げといいますかね、最後に粗彫りした後に、完成させるときに、そこが一番難しいといつか、表面をですね、何といつか、ツルツル、キラキラしているようになるのですが、ちゃんと木の目を読んで、きれいに磨いた彫刻刀できれいに仕上げ、これ別にヤスリとかかけているわけではないのです。彫刻刀できれいに薄く剥（む）いていくみたいにして、キラキラになるのです。私は下手なので、できないのですが、先生は本当にキラキラになります。そういうふうにして、仏像は最後に仕上げで「もうどこも触るところがない」といふところで、完成という感じなんです。

【水源師】

そのときはグレード 500 とか 300 とか、細かいサンドペーパーあるでしょ。宝石を磨く場合はパウダーで最終仕上げするのですが、そういうふうなテクニックでグレード 500 とか、それで磨いたらどうなのでしょう？

【Bさん】

それはいろんなやり方があるのかもしれませんが、私の教わっている先生は彫刻刀しか使いません。そういうふうな作業はしません。それだけでも信じられないような。

【水源師】

その上に金箔を塗るのはもったいないですね。

【Bさん】

もったいないです。金箔の厚さがあるから、それを考えて彫らなければいけない。だから、金箔を付けるか付けないかで、作り方が違うし。

【水源師】

あれは0.01ミリくらいですよ。

【Bさん】

それでも違うみたいです。そういうような本当に繊細な。

【水源師】

それでもサンドペーパー使えますよね？

【Aさん】

もともとの、この仏像のモデルが石仏、石の仏像なので、石の質感を出したかったので、機械で、円盤みたいなヤスリがぐるぐる回るやつで磨いたのですが、機械だけにあつという間につるつるになってしまうのですが、あまり機械で磨いたりとかは、木はあまりしないとします。

【水源師】

やはり違いますか？ 刃物で彫ると、そういうふうな大量生産の。

【Aさん】

そうですね。

【水源師】

やはり少しでも時間かかっても、刃物で、そのときに心が映っていくわけですね。だから、習字あるでしょ。やはりバーンとやれば、そこに心が映っているのですね。

だから、偉いお坊さんの何かお言葉には、やはりすごい力が入っているね。やはり魔もなかなか入ってきませんね。ただし行を達した、すごいお坊さんに限ります。

【Bさん】

必ずしも「きれいだから、どうだ」ということではなくて、やはり、これは円空さんを私が真似してつくったのですが、円空さんなんかは本当にバー、バー、バーッとつくって、それが持っているものは、すごい力があるし、きれいだとか、そういうことは、また違うと思います。ただ、きれいに彫るといのは、私の先生などのお話を聞いていると、瞑想と一緒にだなんて思って、本当にもう全く「無の境地」でやっているときにきれいにできると。

「一心」「無心」「無我」を体験すること

【水源師】

だから、皆さんにご紹介しているわけです。ただ坐るのではなく、料理でもよいし、何でもよいし、「一心」ですね。「一心を持って」と。ここが「サティ」(念)。だから、今、言った「無心」になるわけ。「無我」「無心」「無我」を体験できるのです。だから、こういう教学よりは「こうして実際に体を動かしてください」というわけ。命が入ってきます。修行の度合いによって、そういう先生方はもう宝石のように輝き始めるとかね、その木が金色に光るとか、やはりもう、その世界は科学では絶対にできないです。

0.01 ミリのゴールドあるでしょ。それは機械で厚さとか、ちょっと違う具合、私たちは、もう目隠し状態だから(笑)、機械もダメですよ。そういう機械は存在しません。人間だけが作れる極地の世界です。でも、私みたいに下手でもゴールドを貼るのです、大変、無駄にするけれど。心を込めてやればね、やはり命が輝きますね。ただ貼ってあげたというだけで。

だから、皆さんも是非、本もよいのですが、さっきお話したように、時間があれば、手で彫ってみることも、非常によいのではないかと思います。

【Aさん】

自分は「無の境地」とか、まだほど遠くて、やはり彫っていると、集中していないと、手を怪我してしまいますので、あと木ですから、1回ミスると、やり直しできないで、集中するしかないので、彫っていると集中してきます。瞑想の集中力を養うのにも、自分は一役買っているのではと思っています。必ず手を刃物の前に置くと、切るので、手は刃物の前に置かないのが鉄則です。どうしても細かいところで、手を前に置かないといけないときもある。私、すごい手を切るのです(笑)。

いきなりこれ難しいかもしれませんね。持ち方とかもありますし。後でこういうやつをやるのが、皆さんに後で回すときは、練習用に彫れるものを用意します。

【Bさん】

これだけでもけっこう、こういうのを彫るだけでも、やってみると分かるのですが、結構難しいです。ただ、こういうのが基本の基本で、一番初めにこれから始める。

【水源師】

それ、手で持ってやるのですか。それとも押さえる道具があるのですか。

【Aさん】

これくらいなら手で持ちます、小さいものは。

【水源師】

注意しないと危ないですね、力の入れ方で。

【Bさん】

あんまり大きなものは、私はやったことないし、造れないので、こんな大きなものは当然、置いて。

【Aさん】

木自体がすごく高いので。

【水源師】

カナダに来てください (笑)。高価な木がどっさりあります。本当に高いです。もうとってあります。10年かけて彫ってください。

【Bさん】

本当によい木は高いですね。そもそも手に入らないですね。

【水源師】

めちゃめちゃ高くなりました。だから、30年育てたメイプルリーフあるでしょ。一つも出さないで、私の後ろに大体、太さこれくらい、長さ8尺、3メートルかな、短いので1メートル50とか。いっぱい積んであるから。屋根を掛けて腐らないように。非常に高価なものです。このメイプルリーフで作ったパン入れはね、1カ月置いても香りも味も変わらないと。非常に不思議な力を持っています。そういうふうに大事に命を使った場合には、何か福が家に入ってくるみたいです。

【Aさん】

そういう木には昔、精霊の話を聞いたのですが。

【水源師】

そうです。だから1本だけは残したから、そこに精霊が宿ったわけ。でも、他も怒っちゃって、なんで短く切ったかと、ちょっと怒られて、怪我はしないけれど、怒られて。「なんで切るのか?」、でも、お隣の家に倒れたら大変でしょ? 台風とか。



水源禅師のクティ前にそびえる、精霊が宿ったメイプルリーフ

【Aさん】

最初は自分、こういう角材がホームセンターで、ヒノキ（檜）なのですが、すごく安いので、最初はこれが入りやすいかなと思います。

【水源師】

まあ、絵付けするわけですね。

【Aさん】

そうですね。

【水源師】

その原本は、やはり写真か何か。

【Aさん】

自分は、本が売っていますので、仏像彫刻の本がないと難しいですから。

【Bさん】

こういう写真をベースに設計図を作ります。

【水源師】

横、後ろは自動的に？

【Bさん】

三次元で、だから、この情報はこれしかなければ、後は自分で考えて。

【Aさん】

自分は左右から見た部分も、やはりあれば、後ろからと。

【水源師】

サマーディブツダの写真ありますから、送ります。

【Aさん】

先生が撮られた？ 有り難うございます。正面、上下、左右、前後左右。なかなかそういう写真がないので。

【水源師】

後ろはたぶんなかったと思うけど、横だね。





ポロンナルワのサマーディブツダ

【Aさん】

まあ、ひたすら数をこなして、数をこなしていくうちに、イメージが頭の中に焼き付くので、そうしたら、だんだんと設計図に頼らなくても彫れるとは思いますが、プロの方でも設計図が完璧に。

【Bさん】

プロの方はプロの方ゆえに、粘土をきちんと作るとおっしゃっていました。まず粘土がしっかりできないと、いきなり彫ることはないようです。そこで、ほぼイメージが、それができると、それと同じものはできるようです。

【水源師】

そうですね、後はX定規でこれを写せばよいですね。

【Bさん】

あと、プロの方は同じものを二つ三つと注文が来ることもあるので、粘土を石工にして残しておくようです。それ見れば、同じもの、先生は同じものをつくれますね。それは人間が

つくるので、見たところ全く同じですが、やはりつくった方は違う、一番初めのが、やはりよいようです。

【水源師】

私も仏像を見るときは顔を見ます。一つ一つ顔が違う。やはりお釈迦様のエネルギーを出す顔があるのですよ。めったにそれに出遇えません。うまくいったやつをカトマンズで見ましたけど、値段がとても高いです（笑）。

【参加者】

ここまでやって失敗した場合に、それを捨てなければいけない場合は？

【水源師】

まあ、茶毘に付す（笑）。本当ですよ。私は春一番に湖の側でファイアー、護摩焚き。そこに、そういうときに茶毘に付します。そういう尊いものとかは。そうしたら火が違うのですね。大地のエネルギーが入るといいます。いろんな形を見せますよ、不動明王みたいとか、本当にすごいものです。でっかい木ですから。1回、来てみてください。日本では見られないですよ。あつちは木がありますからね。土地が広いし湖の前でやりますから。いくら火を焚いてもよいわけです。怒られません。日本でやれば消防車が来ます（笑）。

6月の末には、その湖の周囲 38 キロ、向こう岸 10 キロ、ボンボンボンと花火大会。それも個人で、自腹でやるのですよ。私は「わあ」と物見台から見て「いいなー」と。まあ、別世界ですね。信じられないくらい違う世界。この地球は、そういうところがいっぱいあります。まあ、ここもまた、ラーメンはおいしいし、キムチはおいしいし、よいものばかりですよ（笑）。では、私もまず粘土で作ってみて、それで真似ていけばよいのですね。





水源禅師のクティ前での焚き火

【Bさん】

まず、粘土で作って、木を横に置いて、点を幾つも取るわけです。その点をいっぱい取れば取るほど、忠実にコピーできますよね。そうやって大きなトースカン、鉛筆が付いていて、動かしても高さがぶれないような機械で印を取って。初めは台に乗せてあるのですね。同じ木の台に乗せて、全く同じ状況にしておかないといけません。それで端から何センチ、何センチと、まず粗く落として行って、大体それで落とすきったら、今度は細かく点を取って行って、同じ点を取って行って、それをいっぱい取って、あとはまあ、感覚で落としていき、大体、粗く削ったら、あとはもう、感覚で彫ればよいと思います。

【水源師】

やはり、芸術ですね。

【Aさん】

そうですね。

【Bさん】

やり方としては、そうやって、やっていけば、誰でも作れます。

【水源師】

杉は柔らかい、メープルは堅いらしいです。

【Bさん】

これはヒメシヤラ（姫娑羅）です。めちゃくちゃ堅いです。堅いのはすごく疲れます。

【水源師】

まだまだ、まずは石けんから。

【Bさん】

普通はヒノキ（檜）が一番やりやすいですね。松もいいですね。松も柔らかいです。

【水源師】

3Dプリンターでやったら？

【Bさん】

元は自分で作らないと！ 3Dプリンターは分らないです。技術的にはできるでしょうが、それはたぶん面白くないものができるのではないかと思います。

【水源師】

仏像の手の指あるでしょ？ それはどういうふうにして彫っているの？

【Aさん】

これは、実は手だけ切り離してから、後で接着しています。差し込むようにして。ここは彫れないですから。

【水源師】

「一刀彫」という手法もあるでしょ？

【Aさん】

彫る場合もあります。「一木造り」もありますが、自分にはそういう技術がないので、これたぶん手を作ろうと思って、元の部品なのですが、手だけは別に作りました。

【水源師】

頭、体、別々で合わせてもいいわけですね？

【Bさん】

いいですね。それ（お地蔵様の顔のお像）も体をつくれば、体にはめれば、お地蔵様になります。

摩訶不思議な私たちの世界

【水源師】

すばらしい顔ですね。高野山でね、昔、親鸞聖人が修行したお堂があるのです。私、知らなかったけれど、私がたまたまそこで修行していたの。そこのお堂は「親鸞聖人の歯と毛があるはずだ」と、高野山の偉い方が言っていたの。西本願寺、本願寺の方は認めていないけれども、高野山のそういう方が言うのだから、たぶんあると思う。

そこで、瞑想して帰ってくるときに、お地蔵様の石ですよ、本当に水の涙が出てくるの。それでネパールのね、カトマンズの近くにグル・リンポチェの洞窟があるのです。修行した後、手の形が付いて。そこにね、グリーンターラー（緑多羅菩薩）というのがあるのです。私が3年か4年前に見たときは、これくらいだったのですね。グリーンのお石ね。今これくらい大きいわけ。そこでは、グリーンターラーが石からどんどん大きくなるという。本当に大きくなっている。

【参加者】

仏像ですか。

【水源師】

石です。カトマンズのグル・リンポチェのお寺にあるから、そこに行けばね、グリーンターラー、私が見たときこれくらい。これはチベットの人から教えてもらった。2回目行ったとき、これくらい大きくなっていました、きれいに。「嘘か!」、本当に「嘘じゃないか」と疑うくらい。

【参加者】

私も2回行ったことがあります。

【水源師】

あそこのお寺見ました？ 中にグリーンターラー。

【参加者】

ちょっと覚えていません。

【水源師】

ガネーシャ見ました？

【参加者】

洞窟で瞑想するのが…。

【水源師】

洞窟の横のお寺です。あるのです。そこ、人がお参りしているから。今度、行ってみたら、2 回行かないといけないですよ。ちゃんと、サイズ、本当に。グリーンターラーがどんどん大きくなるという伝説を聞いて、私は2 回行ったから、「嘘じゃないか」というくらい大きくなっているわけ。

それでガネーシャもね、これくらいだったわけです。もうこれくらいになっている（笑）！「まさか、嘘じゃないか」というくらい。本当に摩訶不思議。だから、科学的に考えたらね、「夜こっそりと取ってまた」ということまで疑わざるを得ないくらい。本当に、あまりのことに疑わざるを得ないくらい、きれいに大きくなっている。という、この世はやはり非常に不思議な世界です。

地球を狙っている魔

特に、この世で一番大切なのは「愛、メッタ、カルーナ、慈悲の心がいかに大きくなっていくか」と。これを潰すために「憎しみ」、ね、そういう「人をいじめる」とか、そういうことによって「愛の世界」を潰そうという力があります、宇宙的に。そういう「苦しみを吸い取って生きる生命体」があります。だから、そういう国とか人が戦えば、喜ぶ生命体があります。そういう「悲劇のエナジー」で生きているわけ。摩訶不思議な、この宇宙のシステムですよ。

だから、「必ずや問題を起こさせて、そしていがみ合わせる」と。特に、それが強烈になればなるほど、この生命体は喜ぶわけ。という、そういう生命体は次元を超える力を持っているから、ちょうど魔法みたいに何でもやってしまう。ということは、キリスト教の経典にも書いていますし、仏教にも、もちろん書いてあるはずですよ。皆さんは、ほとんど摩訶不思議で「嘘」と思うでしょ。現実には、その力が、この地球を狙っているわけです。

私が今回、エクアドルに行ったとき、私の隣に住んだ方が、NASA のムーンランディング (Moon landing) のエンジニア、造った設計者なのです。月の秘密も全部教えてくれました。この人がアラスカに行って、強烈な電波を発射する機械を造ったわけですね。7、8 カ国連合で 2000 人の人が造ったわけです。なぜ、アラスカかというと、強烈な電磁波を発射するから、下が凍っていないと、とても熱くて機械が爆発するから。そうしてね、発射したわけです。そうしたら止まらないわけです。そうしたら、天空から、ちょうど「赤鬼」みたいに顔が「鬼」、顔も赤。ワーと降りてきたと。NASA のエンジニアですよ。バーンと爆発して、それでシャットアウトしたと。止まらないのですって。止めようと思っても、電流が強烈に流れて。

だから皆、「悪魔とか魔とか、もう空想でしょ？」と、（しかし）実際、そういうのがいるし、写真も渡しましたね。本当に「悪魔の顔」、空中に浮いている。この地球の外にはいっぱ

いそういう生命体がおるのですよ。そういうことを日本で言えば、ちょっとおかしい、頭がおかしくなっているとか、馬鹿にされるけれども、そういう人が、こう言った後、私の生徒がキューバで海岸を歩いて写真を撮ったら、本当に「魔の顔」がパーと写った。私の生徒は「これはよいことではないか？」と言った。「いや、見なさい！ この血を嘔んで」、これは「地獄の一番下の悪魔の顔」なのです。食いちぎって血が流れている、その顔なのです。

それがダンテ・アリギエーリという『神曲』に出てくる顔なのです。そういう教典も、皆さんほとんど読んでいないし、紹介されていないし、私は4年かかって、その英語ですよ、非常に難しい、難解。瞑想しながら読むしかないので。恐ろしいところです。西洋でも地獄は恐ろしい。東洋でも恐ろしい。存在するのですね。その「魔の顔」が空中に写っていました。そのNASAのエンジニアが言うには、これが降りてきたら、私たち、全地球が破滅と。食い荒らす！ パーと。原爆なんてものじゃないです。アメリカはちゃんと知っているわけ。知らないのは、私たち東洋人が馬鹿騒ぎしているわけ（笑）。

これです、見てください。これです、この写真。私の生徒がキューバで撮った写真。「悪魔」でしょ。これですよ。これが、地球外にちゃんと皆さん狙っているわけですよ。じっくり見てください。これが不思議とツインタワーが爆破したでしょ。「黒い顔」で同じ顔。

だから、像というのは、魔も造れるし、聖なる恵みを与えてくれる、二つができるわけ。だから、善い方を造れば幸せが来るし、そういうもの（悪い方）をやれば世の中が暗く、悪いことになる。これも世界初公開。私の話、嘘だと思うかもしれませんが、本当にいた、この顔。これが地球に降りようとしてきたらしい。



地球に降りようと、半分が出かかっている「魔の顔」



口から血が流れている「魔の顔」

こちらの写真を見てください。これは私がチベットに行って、ラサの写真家が実は撮ったのです。お釈迦様の顔。朝9時に東の方から撮った。日付も書いて。それで「これ嘘だろ！」と。「いや、撮った」と。でも、あまりにも不思議な写真で、これ撮ったのですけれど、ここにはね、羊の顔があるのですよ。羊の顔とエンジェルもあるのです。羊というのはジーザスの象徴なのです。自分を生け贄にするという。まあ、これはちょっとボケていますがけれど、皆さんに渡します。お釈迦様の顔が写っているわけです。回してください。



お釈迦様の顔、羊の顔、エンジェルが写っている

水源禪師が瞑想で観られたお釈迦様

【参加者】

本当か分からないですが、ブッタガヤの仏塔があるじゃないですか。そこで写真を撮ったら、これが写ったというのを、インドのクシナガラに住んでいるスリランカのお坊さんに言われて。

【水源師】

ああ、これは有名なお顔ですね。

【参加者】

これは本物なのですか。

【水源師】

いや、私がブッタのサティ（仏随念）で、お釈迦様を観たときはね、「いやー、これこそ『神』」というしか言われないうくらい神々しくて、まあ、似ているといえれば似てはいますが、もっ

とハリウッド映画のモーゼみたいな、もっと男。これはちょっと女性らしいけれど、ものすごく超美男子と言えば、超美男子の顔でした。

【参加者】

それは、では偽物ですか。

【水源師】

自分の心をカメラで写しているかもわからない。一番よいのは、やはり瞑想でブッダのサティと、過去にお釈迦様にあったことがあれば、必ずやその顔が観えます。

【参加者】

こういう、ギリシャ彫刻？

【水源師】

近い顔です。これに近い顔です。

【参加者】

これに近いですか。

【水源師】

はい、近いです、もっとすごいです。これはもっとインド風な顔でしょ。ギリシャ的な顔をしています、私の観たのは、歩いている姿を観ました。

【参加者】

こういうのは今の世の中、合成とかもできるではないですか。見分けるのはどうしたらよいですか。

【水源師】

あのね、人間には不思議な力を持っていてね、私の生徒はカメラでやれば、オーブが撮れるのです。私がやっても撮れないです、同じ機械で。ある人がやれば UFO 撮れるけれど、私がやれば撮れないです。心と機械がね、機械だから必ず撮れると思うでしょ？ そういうことが発生しないのですね。不思議なのです。実際の話だから、確か『法話集』19 かな、オーブを載せたでしょ。あれは私の生徒が撮ったの。でっかい、これくらい。韓国のお坊さんが、カナダに来たとき、私の生徒が「仏の力を欲しい」と言うから、お坊様が仏力をその生徒に入れるときにオーブが写っていたのです。

ただ、その「仏の力を入れる」というのは「ただ拝んで」というのではない。本当にエネルギーを入れるから、オーブがこんだけでっかく。普通では見えないわけ。だから、誰がやっても一緒というわけではない。業力がある人とない人では全然違って、やはりそういう人

が写真を撮れば、こんだけでっかいオーブがポンと出る。だから、この世の中は摩訶不思議なのです。そういうことを一切、教えられてないから、私たちは喧嘩するのです。自分勝手に「こうだろう、ああだろう」と。



韓国の寂鏡禅師と水源禅師
(寂鏡禅師の頭上にオーブ、水源禅師の頭上に光)



カナダのサンダーマウンテンの儀式にて
(たくさんのオーブが写っている)

そう、お釈迦様、この顔に一番、近いですね、私が観たのは。背も高いですよ。サーと。でっかい人です。

【参加者】

台湾の禅林でしたっけ、白いお釈迦様も。

【水源師】

そうそうそう、だから、一番、お釈迦様の顔に近い仏像はミャンマーにあります、涅槃像。世界遺産の涅槃像が一番その顔に似ていました。目も青いのです。頭はブルーというのはね、瞑想をグーとして、黒い髪は、実は水色なのです。これ黒く見えますけれど。ヴィパッサナー（観）で、ずーっとそれを観ればね、三十二身分の瞑想をして、頭の毛をバーと観たら、ここの頭は森なのです。いろんな虫が住んでいます。森とちっとも変わらない。本当、本当。川も流れているしね。全然変わらない、地球の山と一緒に（笑）。ちゃんと本当に観えるよ。

【参加者】

お釈迦様の仏像は必ずこういうふうになっていますが、お釈迦様は比丘ではないから、剃っていないのですか。

【水源師】

いえ、2回剃ったという話を聞いています。その絵を1回、見たことがあります。最初、比丘尼の集団をつくる時に、お釈迦様が一番最初に先頭に立って、そのときは坊主でした。その画像を1回見たことがあります。後は耳がこんな形で、私がブッダのサティで観たのも、やっぱり髪はありました。今日も、いろんな楽しい話をし。本当に聞かれない話よ。今回、あなたたちがここに来たから、門外不出の話で、すごい話を聞いたでしょ、仏像の話で。

お釈迦様の菩提樹から始まって

【水源師】

というふうに体験しかないわけです。まだまだいっぱい忘れていますがありますけれど、この世でたった1カ所だけ、そこに行けば、菩提樹の力と同じ木が、ベトナムのある街の中にあります。菩提樹と同じ、ベトナムです。私は偶然そこに行ったのですが、夜も昼も小鳥がチチチチと鳴いている。エネルギーがものすごく放射している。そのエネルギーは、菩提樹がスリランカにあるわけですね。その境内の中に入って、初めてその力が分かる。外から見たら分からない。ただ、私がたまたま比丘だったから、案内されて、そこでお参りして、写真も確か撮った。これこそ神の木、すごいエネルギー。それに一番近いのが、あるベトナムの町にあります。町の中の人には知らない、何を意味するのか。でも、そこにちゃんと仏陀があってね、皆、なんか夜になれば座って、そこで瞑想しているみたいです。

【参加者】

Aさんも菩提樹を大きく育てているのです。

【水源師】

あれはね、一代目の種です（『水源禅師法話集』第24巻参照）。本物の一代目の種。本物の木からね、種から育てないのです。本物の枝を切るでしょ。そして、それを土で固めて、中で境内に置いておくのです。だから、一代目の木なわけです。だから、それから大きくなって種を出したから、その原木と、お釈迦様の木と変わらない。その木の種だから、一代目から出た種です。

【参加者】

不思議ですね。Bさんも育ててくださった。



水源禅師が将来された「お釈迦様の菩提樹の種」から
Bさんが育てられた菩提樹（2013年10月12日 忍野合宿）

【Aさん】

Bさんにもらったのです。春に鉢から地面に植え直したのです。そうしたら、最初は太さがこれくらいだったのが、たった半年で手首くらいに。



Bさんの菩提樹から
Aさんが育てられた菩提樹

【水源師】

それは珍しい。菩提樹の苗あるでしょ。すごく高いのです。めちゃめちゃ寄付しなければいけない、よかったですね（笑）。

【Aさん】

挿し木、枝を土に挿しておく、芽が出るのですが、やはり新芽はできないらしくて、1年たつと、1年たった枝は丈夫で、エネルギーがすごいから、来年、挿し木を挑戦してみるので、それでどんどん増やしたいと思います。

【水源師】

あれはね、高いものなのです。本当に。そういうふうになる木なんて、めったにないのですよ。菩提樹は、お釈迦様のように扱われて、お釈迦様と菩提樹は一体なのです。やーよかったです。すごいですね。うらやましい(笑)。

【Aさん】

再来年になったら皆さんにもお分けできると思います。

法のもとで、みんな仲良く生きていく

【水源師】

こういうふうに、皆さん仲良く法のもとで暮らしていけば、もう「あの国、この国」ということもないし、「あなた、こなた」もないし、「北も南」もないし、「東北も九州」もないし、法の木の下で生きていけば、本当に涅槃の世界に行けます。だから、明るい未来志向で行って「できるだけ人のために尽くして生きていく」と。それだけでやっていけば、ご褒美がたくさんきますから。

そうでなければね、今のイラク、パキスタン、アフガニスタン、リビア、ああいう悲惨なことになります。もう国の内戦ですからね、シリア、いがみ合って。「あれだ、これだ」、全部あれ外国から来ているわけ。それを知らないから、戦い合うの。

ただ、日本のすごかったことは「徳川幕府が全部あげてしまった」でしょ。それで「火を付けなかった」と。普通の国は内戦で完全に破壊。ということで「ここに仏法が残った」わけです。仏法のことを考えて、後は何も考えない方がよいと思います。この中で楽しく和気あいあいと仲良くいかにして生きていくかと。

そうでなければ、政治とか何とか言ったら、もう永遠に憎しみ合います。今もエジプトの歴史から連続です。その連続です。ああいえばこういう、こういえばああいう。もう破壊しかない。ドゥッカ(苦)しかない、という現状なわけです。法の下では、これほどすばらしい恩恵を私たちが受けて、これほど楽しい時間はないわけです。

実は、私は岸首相あるでしょ、昔。日本の首相。彼そこですよ、私はその傍。そういうことはね、あまり意味ないです。まあ、そういう体験があるわけです。だから、そういうね、お金とか名誉とか、あまり考えないで、これが一番幸せ、私の体験から。なぜかといったら、そういう生活全部、体験を通して私が言っているわけ。ハリウッドスターのカウボーイ映画に出てくる、すごい日本でも超有名な方でも、こうしてお話しして、同じ人間。

水源禪師が物やお金を生かして建てられたクティ

【参加者】

先生はよく旅をされるけれど、お食事とか、泊まる場所とか、本当にバックパッカーのようなところに泊まられて、でも、おいしい、それこそ屋台でも、すごくおいしいところを

見つけたとか、何て言うのでしょうか、お金を生かして、上手に、上手に、今回の湖のクティもそうなのですが、実際のお家のところの洪水があった保険をうまく自分で、自力で、床から何から全部、ご自分で修理されて、その余ったお金を湖のクティに回して下さって、また、その湖もカナダの生徒が手伝って下さったのですが、本当にご自分自ら、下水から、電気から、ガスから、水道から、壁から、ドアから、本当に、一から休みなくやってこられたので、まあ、私はちょっと垣間見ただけですが、こうやって、本当の法を弘める方は、すべてパーフェクトというか、すべてできるのだなーと。

【水源師】

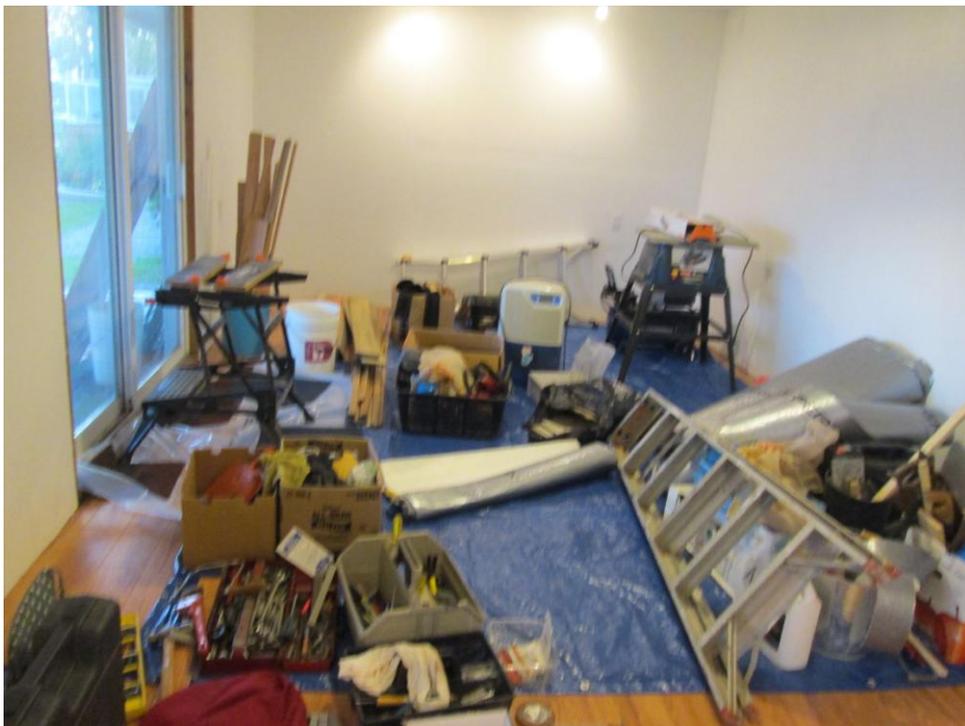
まあ、何とかかんとか、ごまかして。

【参加者】

お金も生かして、ご自分の本当に労働、自ら働いて、働いて、怪我しながら、休みなく、休みなく、すべて皆さんのためにつくられて、本当に物語っている。

【水源師】

あまり勧めません。非常に危険。勧めません。あの、恥ずかしながら、チェーンソー、バーンと。だから、まあ一瞬ですからね、ヒマラヤの山でよく命を落さなかった、その連続です。ま一休みもなく。だから、お勧めはしません。という「法の中で生きていく」というのはね、こうして「皆さんと幸せを分かち合える」ということ。



水源禅師の工事道具



水源禪師の工事中のクティ

今日はこうして、私の彫刻刀はエクアドルで手に入ったのです。エクアドルはクリスチャンでしょ。よくエンジェルとか彫るでしょ。カーブとかね。あのカーブの刃物いっぱいもってきて、16種類くらいかな。これで全部彫れると。あっちのマスターが選んでくれて。

【参加者】

日本の彫刻刀とは違うのですか。

【水源師】

違います。こう曲がったり、一つ一つカーブがあるでしょ？ 刃物が違う。だから、ちょうど私も勉強して「あーそうか」と。「やってみよう」と。「時間があればいいな」と思って。来年から。これくらいでよいですか？ 最後に回向文を唱えて。

<回向文>

願以此功德 普及於一切 (願わくはこの功德をもって、あまねく一切に及ぼし)
我等與衆生 皆共成仏道 (我らと衆生と、皆ともに仏道を成ぜんことを)

【水源師】

まあ、よく来てくださいますして、またよくがんばってくださいました。有難うございます。明日もできるだけがんばってください。治療の瞑想法、本当にごんばってください。本当に治りますから。本当に治りますから、一生懸命やってください。

今回、この3日間、4日間の間に一番重要なところだけ教えておきますから、後はそれを続けたら、1年以内にアトピーは完全に治ります。他の方も続けてみてください。完全に、だんだん体が変わっていきますから。是非、体の悪い方は真剣に捉えて、お医者さんは治せないのですよ、本当に、20年かかっても治せないのです。実際に、これで治っていますから、真剣にやってください。必ず治ります。本当に、実際にアトピーとか難しいでしょ、現代の医療では。実際に治りました。ご苦労様でした。



仏歯寺跡といわれるアタダゲ

水源禪師法話集 38
(2014年10月11日 京都合宿)

2015年9月13日 発行

編集兼発行 一乗会